(19)日本国特許庁(JP)　(12)登録実用新案公報(U)　(11)実用新案登録番号
実用新案登録第3232996号
(U3232996)
(45)発行日　令和3年7月15日(2021.7.15)　(24)登録日　令和3年6月28日(2021.6.28)

(51)Int.Cl.　　F I
G02C 5/22 (2006.01)　G02C 5/22
G02C 1/00 (2006.01)　G02C 1/00

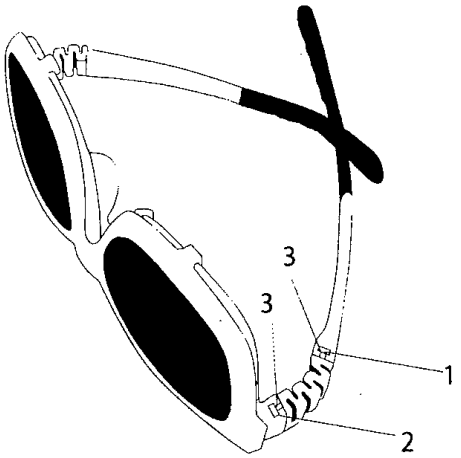
評価書の請求 未請求　請求項の数 2　書面　（全 5 頁）

(21)出願番号　実願2020-5704(U2020-5704)
(22)出願日　令和2年12月16日(2020.12.16)

(73)実用新案権者　505293716
森　史郎
東京都東久留米市中央町１丁目２番４２
(72)考案者　森　史郎
東京都東久留米市中央町１丁目２番４２号

(54)【考案の名称】眼鏡のフロント部分とテンプル部分をつなぐ蝶番の形状、材質を工夫することで、容易に蝶番を付け替えることができ、かつ顔幅に適したかけ心地を実現する眼鏡。

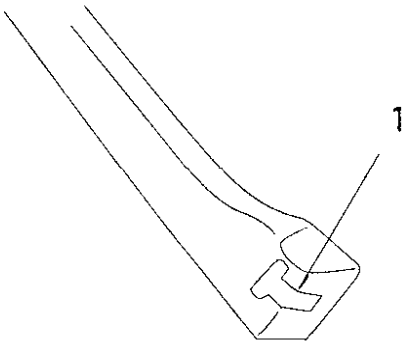
(57)【要約】　（修正有）
【課題】眼鏡フレームのフロントとテンプルを結ぶ蝶番を付け替え可能にすることで、デザインの組み合わせができることを目的とする。またフロント、蝶番、フレームのそれぞれの接着面を工夫することで、眼鏡を使用する視力の弱い人でもドライバー等の精密機器を使わずに容易に付け替え可能とすることを目的とするものである。さらに蝶番の素材、形状を工夫することで、顔幅に適したフィッティングを実現する眼鏡を提供する。
【解決手段】蝶番つまりフロントとテンプルをつなぐ部分の素材を弾性が高い成型樹脂にし、外面と内面にそれぞれ一定の間隔で凹部を要する形状にする。フロントとテンプルに接する両端を凸状の形状にし、フロントの蝶番との接着面、およびテンプルと蝶番との接着面をそれぞれ凹状にする。蝶番の凸部３をテンプル凹部１とフロント凹部２にはめ込むことで、３つの部品をつなぎ合わせることができる。
【選択図】図６



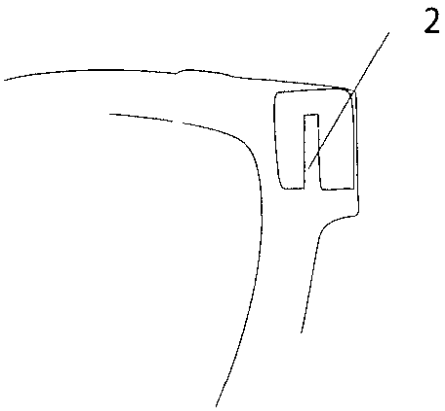
【実用新案登録請求の範囲】
【請求項１】
眼鏡のフロント部分とテンプル部分をつなぐ部分、つまり蝶番を付け替えられるようにすることで、デザインの組み合わせが容易にでき、かつ素材を工夫することで、弾力性があり、さまざまな顔幅に対応できるようにした眼鏡。
【請求項２】
蝶番の外面凹部のすべてまたは一部の底部を円形状にすることで、マスク等の紐をひっかけられるようにした特徴をもつ請求項１の蝶番。
【考案の詳細な説明】
【技術分野】
【０００１】
本考案は眼鏡のフロントの形状とテンプル部分、及びそれらをつなげる蝶番の形状、材質を工夫することで、柔軟性のある眼鏡を実現する。
【考案の概要】
【考案が解決しようとする課題】
【０００２】
眼鏡のテンプルや蝶番を違う色に付け替えることでファッションを楽しみたいと考えている人は多い。しかし、ネジや精密ドライバーを使用せねばならず、度付矯正眼鏡や老眼鏡などの場合、眼鏡をかけながら作業はできない為、視力が悪い場合、付け替え作業は困難である。
【０００３】
眼鏡をかけながらマスクをすると耳への負担が大きい。眼鏡の一部分にマスクをひっかけられるようにすることで耳への負担を軽減できる。
【考案が解決するための手段】
【０００４】
蝶番部分つまりフロントとテンプルをつなぐ部分の素材を柔らかい成型樹脂にし、フロントに凹状に切れ目を入れる。かつテンプルにも同様に切れ目を入れる。成型樹脂の両先端を凸状にしてテンプルとフロントにはめ込むことで、３つの部品を容易につなぎ合わせることができる。この成型樹脂はテンプル及びフロントとの厚みとほぼ等しいことが望ましい。
【０００５】
蝶番の形状は外面と内面に交互に凹凸があり、カーブを付けることで、テンプルを内側に巻き込むことができる。また外面凹部の底部を円状にすることで、マスクなどの紐で引っ張る力が働いても円の中に紐が収まるため、取れにくくなる。
【考案の効果】
【０００６】
テンプルとフロントを蝶番の取り外しがドライバーなど精密機器を使用しなくても容易になり、パーツ交換等の作業がしやすくなる。さらにこの蝶番は弾性が高いため様々な顔幅でも顔面に対して適度な付勢力を与えることができる。また衝撃を吸収し、顔の安全に一定の役割を果たす。
【０００７】
蝶番外面凹部の底面部の円の部分にマスクの紐をひっかけることで、マスク着用時の耳への負担を軽減できる。
【図面の簡単な説明】
【０００８】
【図１】テンプル側の蝶番に接する部分の平面図である
【図２】フロント側の蝶番に接する部分の平面図である
【図３】フロント側の蝶番に接する部分の立体図である
【図４】フロントとテンプルをつなぐ蝶番の立体図である
【図５】フロントとテンプルと蝶番の部材をつなぎ合わせ際の立体図である

【図６】完成品の立体図である
【考案を実施するための形態】
【０００９】
以下、本考案の実施の形態を図示に基づいて説明する。［図１］の１はテンプル側の凹部である。［図２］の２はフロント側の凹部の正面図である。［図３］の２はフロント側の凹部の立体図である。［図４］の３は丁番部分の凸部である。４は蝶番外面の凹部の底部の円状の図である。１と２にそれぞれ３を差し込むことができる。また４はマスク等の紐をひっかけても外れにくいよう円状であることが望ましい。［図５］はフロントの凹部とテンプルの凹部と蝶番の凸部をはめる際の立体図である。［図６］フロントとテンプルと蝶番をつなぎ合わせた立体図である。
【００１０】
以上のように本考案にかかるテンプル、蝶番、フロントを組み合わせた眼鏡はパーツ交換が容易である。蝶番の弾性が高いため様々な顔幅でも顔面に対して適度な付勢力を与えることができ、適したフィッティングを体験することができる。
【符号の説明】
１　テンプル凹部
２　フロント凹部
３　蝶番の凸部
４　蝶番外面の凹部の底面部

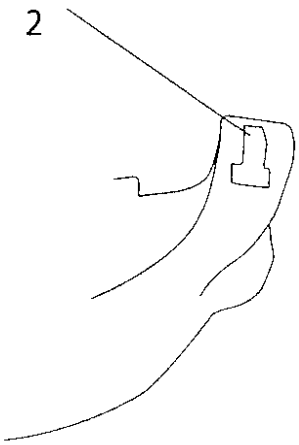
【図１】



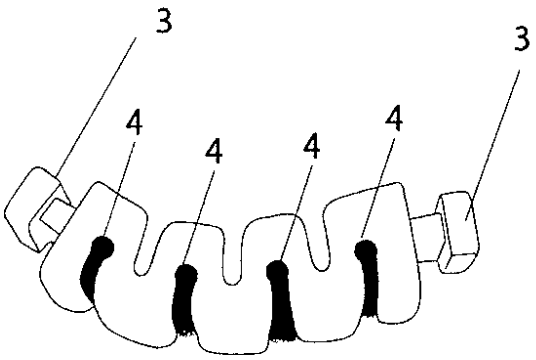
【図２】



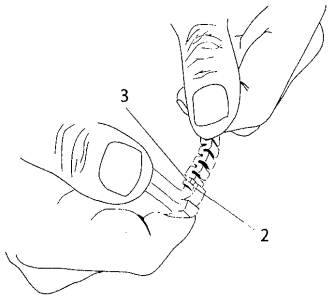
【図３】



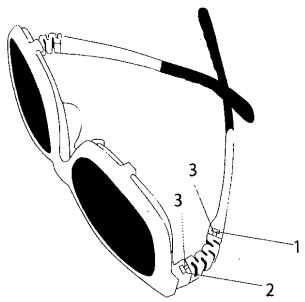
【図４】



【図５】



【図６】



【手続補正書】
【提出日】令和3年3月31日(2021.3.31)
【手続補正１】
【補正対象書類名】実用新案登録請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【実用新案登録請求の範囲】
【請求項１】
眼鏡のフロント部分の凹部（２）とテンプル部分の凹部（１）それぞれに取り付けられるように凸部（３）を有し、かつ外面と内面に交互に凹凸を入れることで弾力性を高めた眼鏡用の蝶番。
【請求項２】
蝶番の外面凹部のすべてまたは一部の底部を円形状にすることで、マスク等の紐をひっかけられるようにした特徴をもつ請求項１の蝶番。